

課題把握

改善のための実行策の検討

実践計画の立案

計画の実践

学年主任の分析

学年会での話し合い

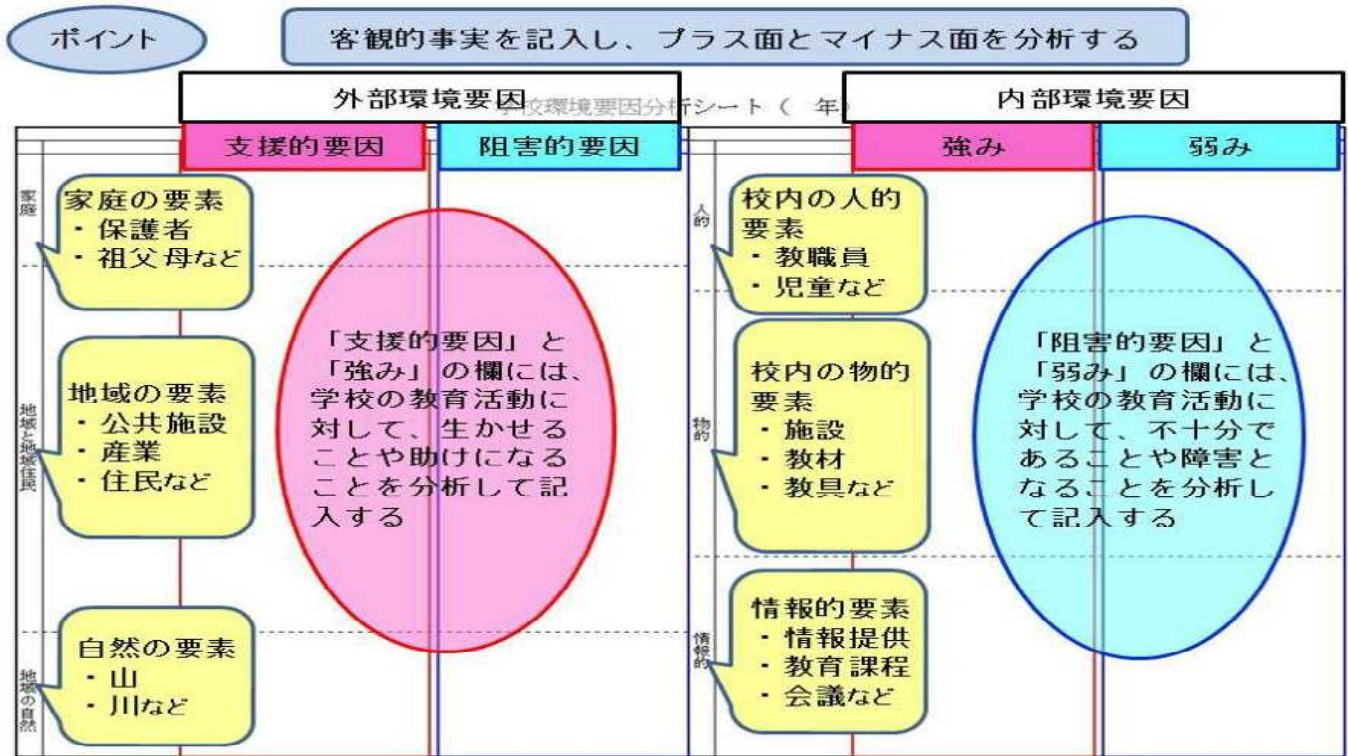
実践



# 見える化システムの教材の使用方法

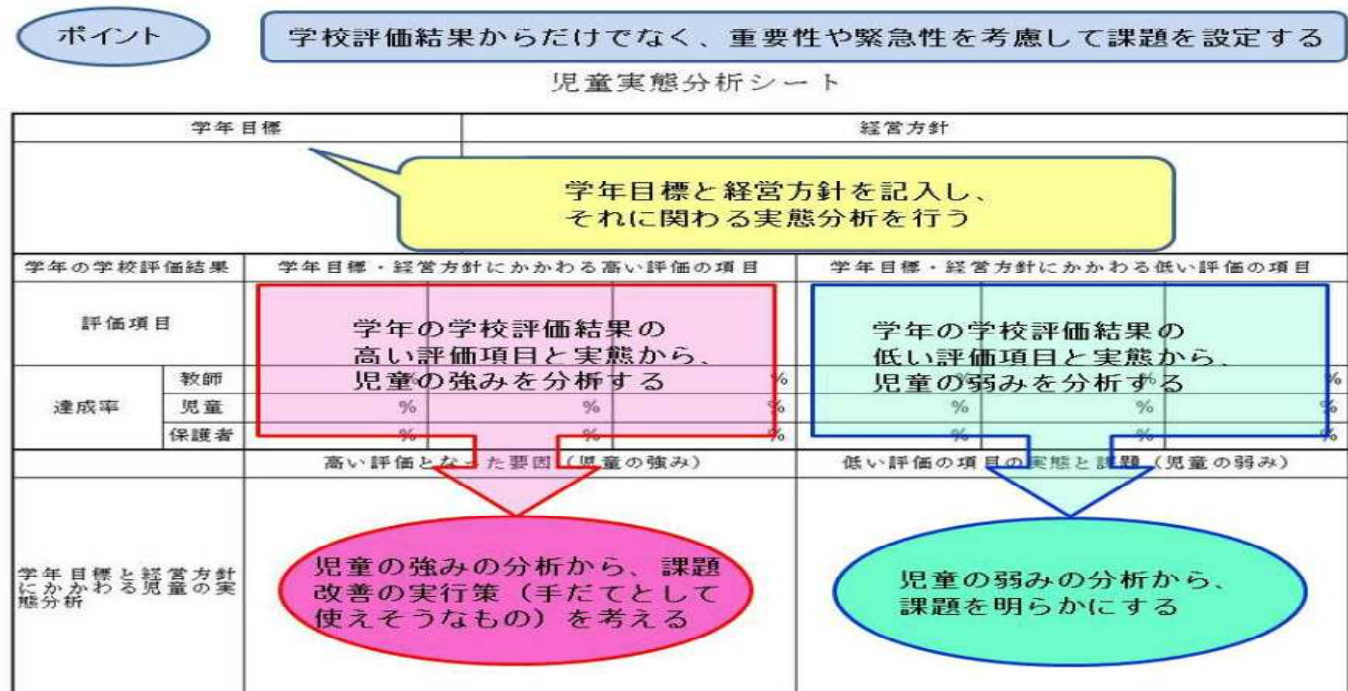
## 1 学校環境要因分析シート

学年主任が、年度当初に、学年を取り巻く環境要因を分析する。課題の原因や改善の実行策を考えるために活用する。外部環境要因とは、学校の教育活動に影響を与える家庭や地域の要素を、また、内部環境要因とは、学校内の人・物・情報などの要素を指す。



## 2 児童実態分析シート

学年主任が学年経営の重点を定める際に、学校評価結果から分析を行い、学年会に提案する。学年の児童の強みと課題を明らかにする。学年主任は、課題や改善の実行策について具体案を準備しておき、話し合いをリードする。

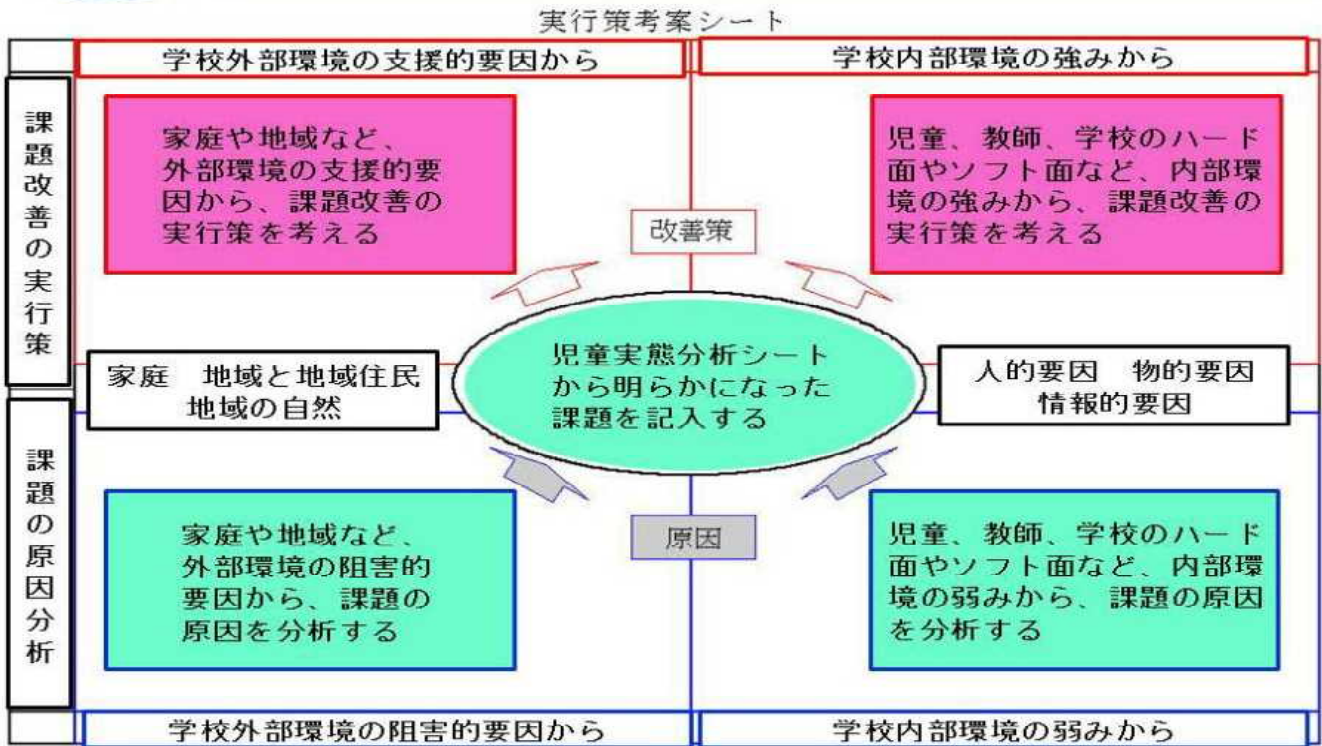


### 3 実行策考案シート

課題改善の実行策を考える際に、学年教師全員で、学校外部環境の阻害的要因と内部環境の弱みから、課題の原因を分析する。また、外部環境の支援的要因と内部環境の強みから、課題改善の実行策を考える。

ポイント

学年教師全員で実行策を出し合い、似ているものをまとめて考えを整理する

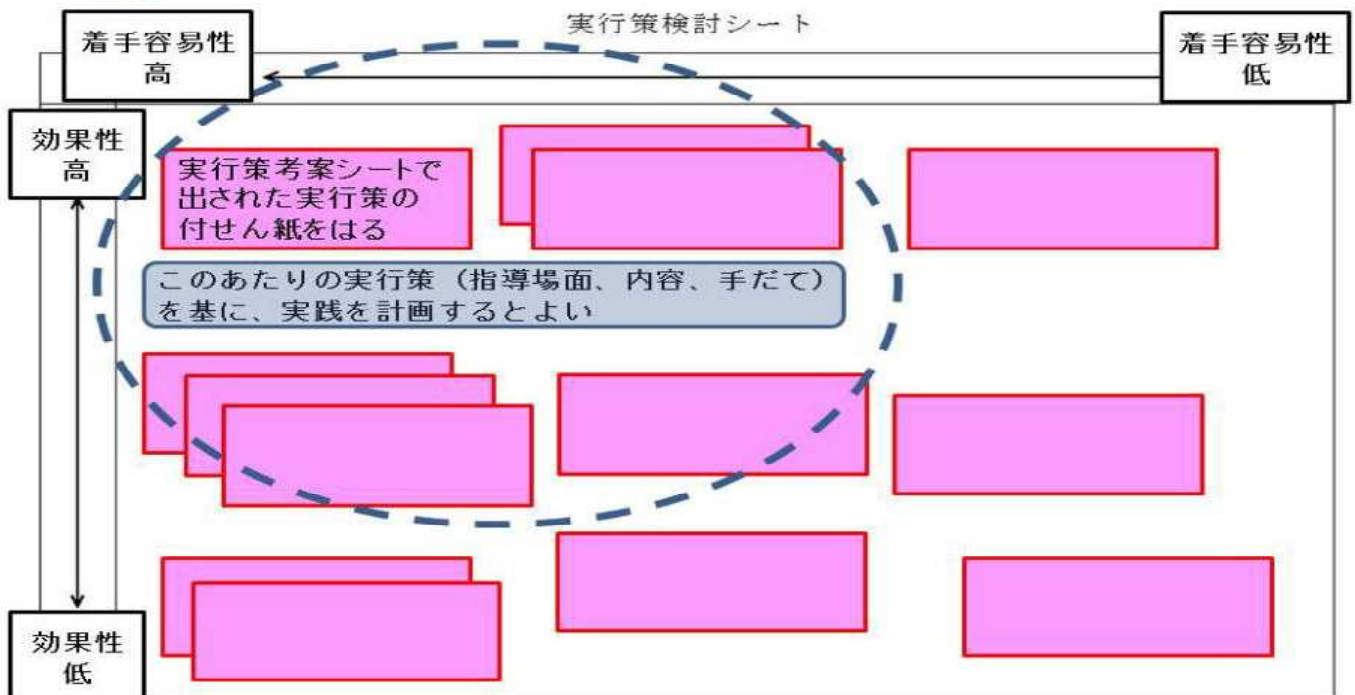


### 4 実行策検討シート

実行策を書いた付せん紙を、効果性と着手容易性の観点から分類してシートにはる。実行策の取捨選択を行い、具体的な実践の計画を立てるために役立つ。

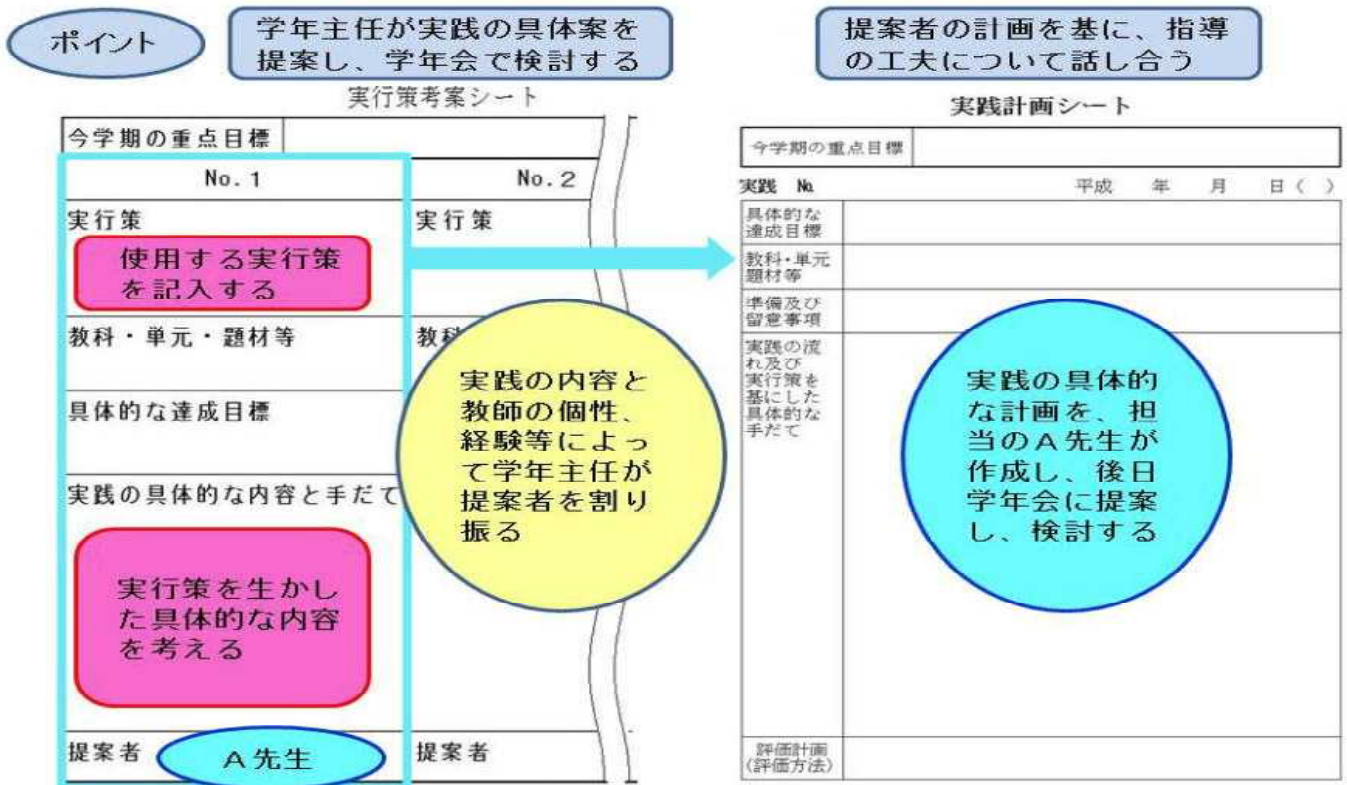
ポイント

効果性と着手容易性によって実行策を分類し、実践の計画に役立つ



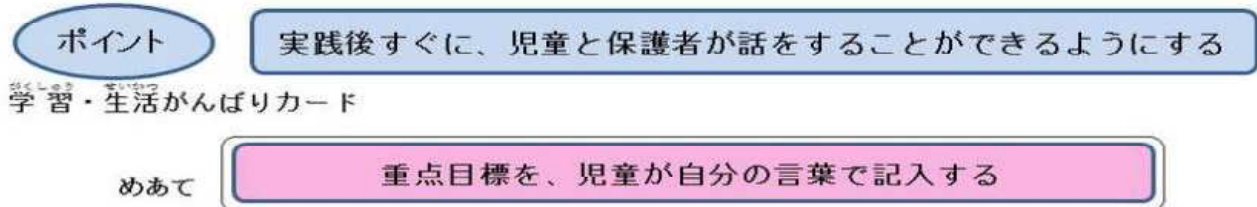
## 5 実行策考案シートと実践計画シートを使った話し合い

学年主任が、どの実行策を使ってどんな実践を行うかについて、実行策考案シートを使って具体案を学年会に提案する。学年会で実践の提案者を決め、実践計画シートによって詳細な計画を立て、指導の工夫について話し合う。



## 6 学習・生活がんばりカード

それぞれの実践終了時に、児童が振り返りを記入する。児童は、カードを家に持ち帰って保護者に話をする。保護者は、カードを見たり児童と話したりして、児童にアドバイスや働きかけを行う。



◎ きょうのべんぎょうで、がんばったことや思ったことなどを書きましょう。また、おうちの人にもお話ししましょう。

	○今日の授業の内容 教科名・単元名等を記入	○きょうのべんぎょうについて 実践終了後、児童はカードを家に持ち帰り、授業の内容や記入したことなどについて、保護者に説明する	○おうちの人から
月	○ねらい		
日	○内容		
曜日	教師が記入 実践の概要が保護者に分かるような説明	児童が記入 分かったことや思ったこと、これから頑張ろうと思うことなど	保護者が記入 児童へのアドバイスや働きかけ、授業の感想など

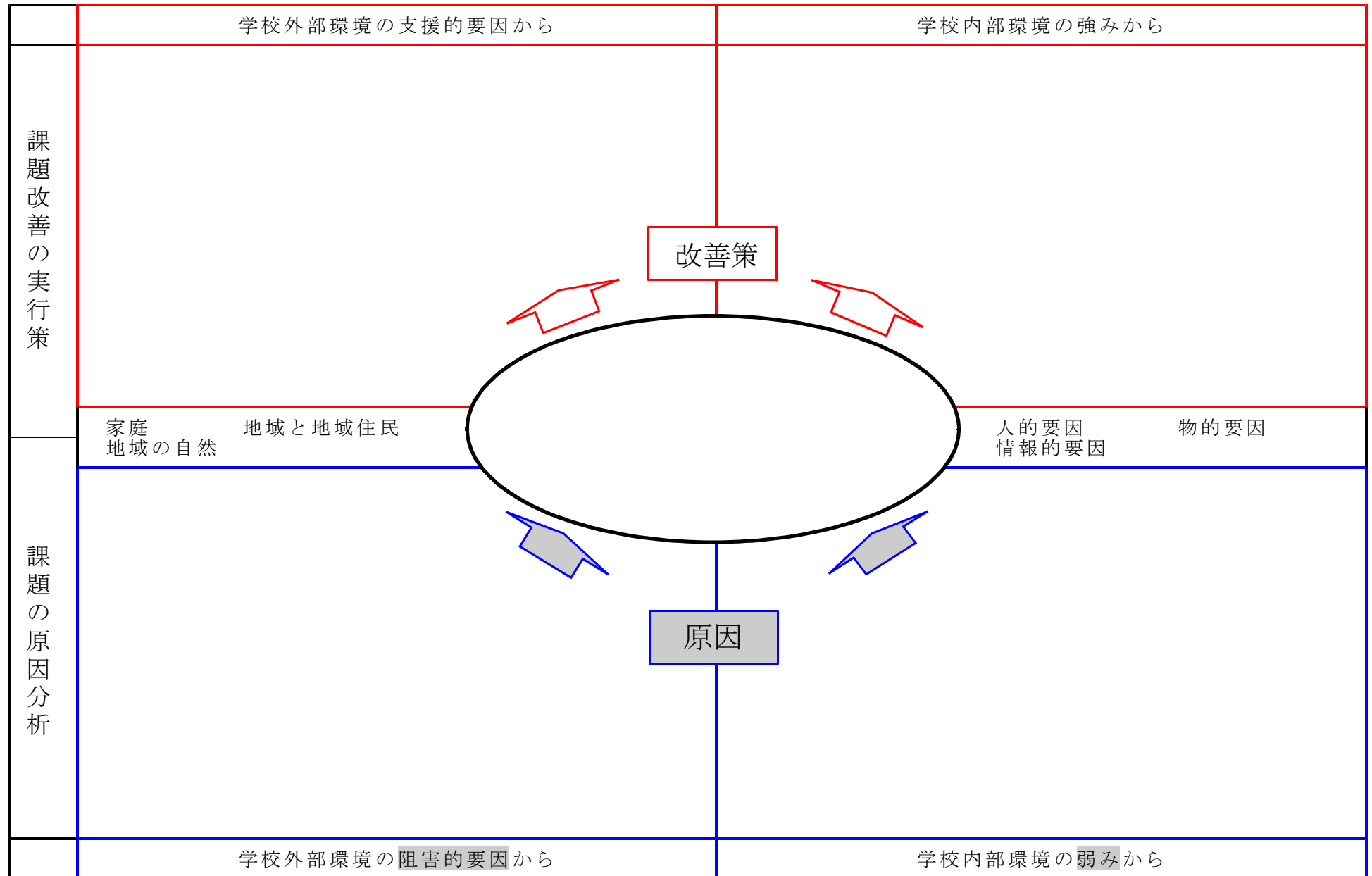
# 学校環境要因分析シート ( 年)

		外部環境要因		内部環境要因	
		支援的要因	阻害的要因	強み	弱み
家庭					
地域と地域住民					
地域の自然					

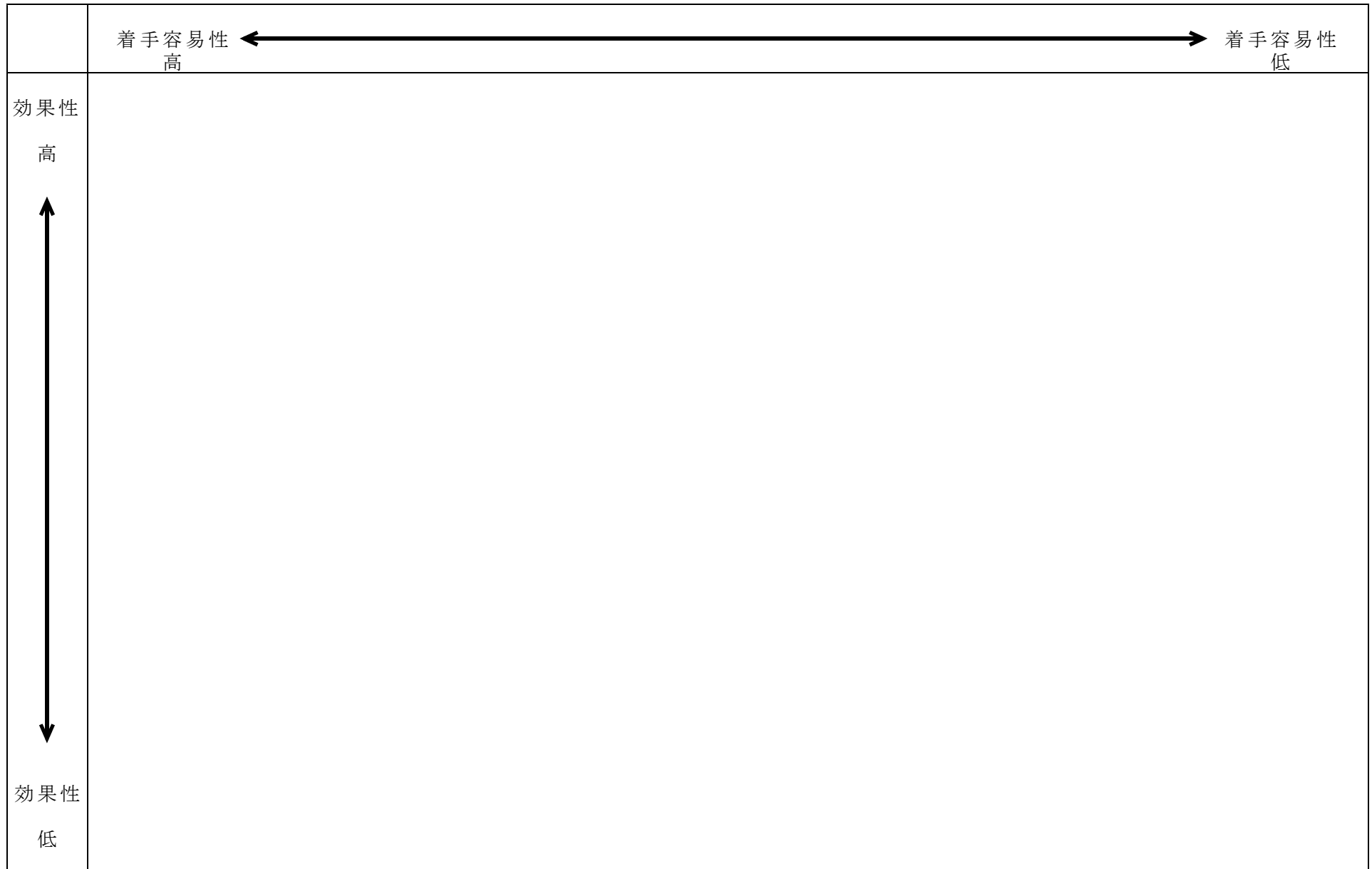
## 児童実態分析シート

学年目標		経営方針					
学年の学校評価結果		学年目標・経営方針にかかわる高い評価の項目			学年目標・経営方針にかかわる低い評価の項目		
評価項目							
達成率	教師	%	%	%	%	%	%
	児童	%	%	%	%	%	%
	保護者	%	%	%	%	%	%
		高い評価となった要因（児童の強み）			低い評価の項目の実態と課題（児童の弱み）		
学年目標と経営方針にかかわる児童の実態分析							

# 実行策考案シート



# 実行策検討シート





## 実践考案シート

今学期の重点目標		
No. 1	No. 2	No. 3
実行策	実行策	実行策
教科・単元・題材等	教科・単元・題材等	教科・単元・題材等
具体的な達成目標	具体的な達成目標	具体的な達成目標
実践の具体的な内容と手だて	実践の具体的な内容と手だて	実践の具体的な内容と手だて
提案者	提案者	提案者

# 実践計画シート

今学期の重点目標	
----------	--

実践 No.

平成 年 月 日 ( )

具体的な達成目標	
教科・単元 題材等	
準備及び 留意事項	
実践の流れ 及び 実行策を基 にした具体 的な手だて	
評価計画 (評価方法)	

めあて

◎ きょうのべんきょうで、がんばったことや思ったことなどを書きましょう。また、おうちの人にもお話ししましょう。

	○今日の授業の内容	○きょうのべんきょうについて	○おうちの人から
月  日  曜 日	○ねらい  ○内容	----- ----- ----- ----- ----- ----- -----	

# 学級活動指導案

平成24年10月15日(月)

小学校 第2学年

指導者 T1 神保 康紀 T2 担任

## 1 題材 「友だちをさそおう」

内容(2)ウ 望ましい人間関係の形成

## 2 題材について

### (1) 児童の実態(男子16名、女子15名、計31名)

本学級の児童は、外で体を動かして遊ぶことが大好きである。年度当初から、学年の方針として児童に外遊びを呼びかけ、教師も外で一緒に遊ぶようにしてきた。また、週一回、休み時間にクラス全員で遊ぶ時間を設けており、児童は集団で遊ぶ楽しさを実感している。遊びを通して友達との良好な人間関係ができつつあり、児童は、楽しく学校生活を送ることができている。しかし、教師が介在している場合は全体に合わせられるが、児童だけだと、自分が好きなように行動したい気持ちが勝り、相手と合わせることができなくなったり、相手の気持ちを押しやてしまったりするなど、相手のことを考えることができない場面もよく見られる。表面的な仲のよさにとどまらず、だれに対しても相手の気持ちを考えて行動できるようにして、よりよい人間関係を築けるようにしたい。

相手の気持ちを考えることができているかどうか、具体的な場面を示し、児童に実態調査を行った。その結果、「自分が悪いと思った時は、すぐに謝ることができている」「遊びに入れてほしいと言われた時は、仲間に入れることができている」については、90%以上の児童が「いつもできている」「できていることが多い」と答え、比較的よい結果が出た。しかし、「休み時間に、一人でつまらなそうにしている子がいたら、自分から声をかけて誘うことができている」は32%、「係や給食当番で大変そうな時に、仕事を手伝うことができている」は19%の児童が「あまりできていない」「できていない」と答え、相手を気遣って行動することはまだできていない様子があった。つまり、児童は、自分に非がある場面や集団で活動している場面では、周りに合わせて判断ができているが、自分から友達の様子に気付き気持ちを考えることは、まだ十分できているとはいえない。1学期末の学校評価児童用アンケートの結果と照らし合わせてみると、児童自身は、この「相手の様子から気持ちを考えることが十分でない」という課題に気付いていないと思われるので、今回の調査結果を児童に示して課題を自覚できるようにして、相手の気持ちを考えることについての具体的なめあてをもたせたい。

学級活動では、これまで、学級内の仕事の分担や安全な生活、楽しい学級行事などについて、児童自身が進める話し合い活動を、教師が支援しながら行ってきた。その結果、楽しく充実した学級生活をつくっていくことに興味をもち、進んで自分の意見を発表して学級の課題を解決しようとする態度が身に付いている。そこで、本題材では場面を変え、友達を遊びや学習のグループに誘うという、よりよい人間関係を築くための社会的スキルを身に付けさせることをねらいとする。ここでも、教師主導ではなく、児童自身が課題と解決方法に気付き、理解できるようにしたい。そのために、課題を把握するための場面絵を基にした話し合いや、社会的スキルを身に付けるための役割演技を基にした話し合いを取り入れる。また、様々な設定で社会的スキルを演習させ、体験的な理解ができるようにしたい。

### (2) 題材選定の理由

本題材は、小学校学習指導要領 特別活動 [学級活動] [第1学年及び第2学年] (2) 日常生活や学習への適応及び健康安全 ウ 望ましい人間関係の形成 に基づいて構成したものである。

「はばたく群馬の指導プラン」では、ぐんまの子どもに伸ばしたい資質・能力として、1・2年生は、「豊かな心ー大切に作る心ー友達と、仲良くすることができる」ことが挙げられている。一人一人の児童の健全育成を図るためには、学校生活において、児童相互の間に信頼や協力など、温かい人間関係を育成することが重要である。学校生活に慣れ、色々な友達とのつながりができるこの時期には、周りの児童と仲良く助け合おうとする態度を育成することが特に必要だと考える。そのために、相手の気持ちを考え、仲間に誘うという行動に移すことについて、児童が体験的に学習できるように構成したのが、本題材である。

本題材では、はじめに、「ぐんまの子どものための50のルール」の中から「だれも仲間はずれにしない」を取り上げ、一人ぼっちの子の絵から仲間に入れない寂しい気持ちに気付かせる。そして、児童の実態調査結果を提示する。このことから、児童は、「友達を仲間に入れるために進んで声をかけることが十分できていない」という課題を解決しなければならないという課題意識や意欲をはっきりもつことができる。仲間はずれにしないだけでは不十分であり、より積極的に声をかけることが大切であることに気付かせたい。

また、声をかけられたからといって、だれもが仲間にすぐ入れるわけではないことに気付かせる。誘われた相手が、気持ちよく仲間に入れるようにするには、誘う側のスキルが必要である。スキルは、単に知識や技能として教えるのではなく、役割演技を見て話し合うことによって、児童自身がスキルに気付き、楽しく実感を伴って理解できるようにする。スキルを理解できたら、色々な設定で楽しく練習をすることにより、実際にスキルを使って友達を誘うという意欲をもたせることができる。

授業後に、スキルを使う「チャレンジ週間」という意図的な実践期間を設け、学年として状況を設定していく。これによって、スキルを高め定着させるとともに、誘い誘われる経験を通して、相手の気持ちを考えることの大切さを実感することができると思う。

### 3 第1学年及び第2学年の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自己の身の回りの問題に関心を持ち、進んで日常生活や学習に取り組もうとしている。	学級生活を楽しくするために日常生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	学級生活を楽しくすることの大切さ、そのための基本的な生活や学習の仕方などについて理解している。

### 4 事前の指導

日時	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
10月11日 (木) 学級活動 (0.5時間)	・相手の気持ちを考えることに関する事前調査の結果を聞き、課題に気付き、めあてを考える。	・事前調査の結果から、自分の悪いところを素直に認めたり友達と仲良く遊んだりすることはできているが、友達の様子に気付いたり気持ちを考えたりすることはまだ十分できていないことに気付かせる。	・相手の気持ちを考えることが十分できていないという課題に気付き、改善のための目標を立てている。 (発言、学習・生活がんばりカード)

### 5 本時のねらい

相手の気持ちを考えて色々な友達を仲間に誘うことの大切さを理解し、一緒に遊んだり同じグループになったりするために、友達に自分から声をかけることができる。

6 本時の展開

(1) 準備 「ぐんまの子どものためのルールブック 50 / だれも仲間はずれにしない」の場面絵  
実態調査結果、チャレンジカード、学習・生活がんばりカード

(2) 展開

主な活動内容	時間	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
1 絵を見て、一人ぼっちの子の気持ちを考える。	5	○仲間に入れずに一人ぼっちでいる子は、とても寂しい気持ちでいることに気付かせる。	
2 アンケート結果から自分たちの足りない点に気付く。		○事前指導で使用した実態調査結果を掲示し、「友達を仲間に入れるために進んで声をかけることが十分できていない」という課題に気付かせる。 ・本時のめあて <b>自分から友だちをさそえるようにしましょう</b>	
3 役割演技を見て誘われた子の気持ちを考え、友達を誘うことの大切さを理解する。	5	○一人ぼっちの子を児童、遊びに誘う子をT2が役割演技する。 T2 「～くん、一緒に遊ぼう」児童「ありがとう」 ・観察している児童には、発問を通して、誘われた側のうれしさや安心感に気付かせる。 ・一人ぼっちの子の役をした児童には、誘われた時の気持ちを発表させる。	○友達の気持ちを考え、仲間に誘うことの大切さに気付いている。 (発言、学習・生活がんばりカード)
4 友達の誘い方を考え、スキルを理解する。	10	○T1とT2で誘う子と誘われる子の役割を演じる。言葉や態度に変化を付け、児童の気付きを促す。 T1 「～ちゃん、同じグループになろう」 T2 「うん、いいよ」 ○誘い方が悪いモデルとよいモデルを順に見せて、どんなことに気を付けたらよいかを考えさせる。 ・友だちを誘うスキル <b>相手に近づき、目を見て笑顔で、はっきり聞こえるように誘う</b> ・誘われた側は、どんな反応をするのがよいかも考えさせる。 (「ありがとう」「うん、いいよ」など)	
5 スキルの演習をする。	18	○誘う側と誘われる側の言葉を確認し、まず、教師対児童全員で役割を交代しながら演習する。 ○次に、以下に示したように、簡単な設定から難しい設定まで様々な形態で、すべての児童が十分演習できるようにする。児童がやり方を理解しやすいように、①～③をそれぞれ区切って説明と演習を行う。 ①最初に、隣の席同士の2人組で2回ずつ演習する。 ②次に、4人組のグループになり役割を交代しながら演習する。誘う役以外の児童は、黒板に掲示した「近くで・えがおで・目を見て・はっきり」という4つの観点から、誘う役のスキルについて一言ずつアドバイスする。(役割が明確になるように、児童に名札を付けさせる) ③最後に、指定されたグループを誘い合って作る。5人以上、男女混合の4人以上など。	○言葉、声、視線表情、位置などに気を付けて、友達を誘っている。 (観察)

6 チャレンジ週間の取組について知る。	7	<p>○今日から1週間をチャレンジ週間として、スキルを高め定着させるために、友達を誘い合って遊んだり学習グループを作ったりする活動を行うことについて説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取組の意欲付けを図り、達成度を確かめるために、毎日チャレンジカードに記入するよう話す。</li> </ul>	
7 本時の振り返りを行う。		<p>○学習・生活がんばりカードを使って本時の振り返りを行い、友達の気持ちを考えて仲間に誘う大切さやスキルについて、再確認することができるようにする。</p>	

(3) 板書計画

**めあて**

じぶんから友だちをさそえるようにしよう

女の子が一人ぼっちで寂しそうにしている場面の絵

**さそう人**

「いっしょにあそぼう」  
「同じグループになろう」

- ・元気よく言った
- ・にこにこしていた
- ・そばに行って言った
- ・あいてを見て言った

実態調査結果

女の子の気持ち

- ・つまらない
- ・さびしい
- ・かなしい

↓

さそわれると…

- ・うれしい
- ・よかった
- ・たのしくあそべる

近くで

えがおで

目を見て

はっきり

**さそわれる人**

「ありがとう」  
「うん、いいよ」

7 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
10月15日(月)から10月19日(金)までの毎日 休み時間や授業中	・友達を誘い合って、一緒に遊んだりグループで学習したりする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人数を指定したり、男女やクラスが混合になるようにしたりして、色々な友達のことを考えて仲間作りができるようにする。</li> <li>・チャレンジカードを使った振り返りを、帰りの会で1週間毎日行うことによって、意識を高めるとともに、いつも友達のことを考えて仲間に誘うことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の気持ちを考え、進んで遊びや学習のグループに友達を誘っている。</li> </ul> <p>(休み時間や授業中の児童の行動の観察、チャレンジカードの記録)</p>

担当者が学年会に提案し、授業のイメージを共通理解するために使用した。

### 展開3 役割演技のやり方

#### 1 役割分担

誘う人 : T 2 (または、担任) 「子ども」の名札を付ける  
 誘われる人: 児童 (事前に誰がやるかを決めて、打ち合わせと練習をしておく)

#### 2 進め方

児童 つまらなそうにしゃがんで下を向いている。  
 T 2 「～くん。」  
 児童 (立って)「えっ、なに？」  
 T 2 (相手に近づき、目を見て笑顔で、はっきり聞こえるように)「一緒に遊ぼう。」  
 児童 (うれしそうに)「うん、ありがとう。」  
 T 2 「じゃあ、みんなのところへ行こう！」  
 二人で手をつないで、にこにこしながら一緒に去る。

### 展開4 役割演技のやり方と話合いの進め方

#### 1 役割分担

誘う人 : T 1 「さそう人」の名札を付ける  
 誘われる人: T 2 (または、児童) 「さそわれる人」の名札を付ける  
 児童の場合は、事前に誰がやるかを決めて、打ち合わせと練習をしておく

#### 2 進め方 (①と②を続けて行う)

##### ①悪いモデル

T 2 立って下を向き、ぶらぶらしている。  
 T 1 (離れたところから小さめの声で)「～ちゃん。」  
 T 2 呼びかけに気付かないでいる。  
 T 1 (そのままの位置で小さめの声で)「同じグループになる？」  
 T 2 「えっ？」  
 T 1 (相手を見ないでブスツとした表情で、つっけんどんに)  
 「僕たちのグループに入れてあげようか？」  
 T 1 (とまどった表情、おどおどした感じ、小さい声で)「えっ、… いいの? ……」

##### ②よいモデル

T 2 立って下を向き、ぶらぶらしている。  
 T 1 (近くまで寄って、親しみを込めて)「～ちゃん。」  
 T 2 (顔を上げて相手を見て)「えっ、なに？」  
 T 1 (近くで目を見て笑顔で、はっきり聞こえるように)  
 「同じグループになろう。」  
 T 2 (うれしそうに)「うん、いいよ。」

#### 3 よい誘い方について話し合う

①どちらの誘い方がよかったですか。

②どんなところがよかったですか。

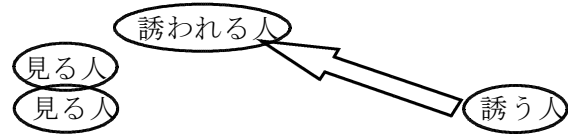
- ・悪い方ではなく、よい方に視点を当てて話合いを進める。  
 (話合いの中で取り上げて比較するのはかまわないが)
- ・児童の意見は全て認め、最後に「近くで、えがおで、目を見て、はっきり」にまとめる。

③誘う人は、「一緒に遊ぼう」や「同じグループになろう」と言いましたが、  
 誘われた人は、何と言ったらいいですか？



## 展開5の② 4人組のスキル演習

- 1 班番号を確認し、「さそう人」「さそわれる人」「見る人」の名札を付ける（事前に机の横にかけておく）
- 2 児童A（誘う人）児童B（誘われる人）T1（見る人）T2（見る人）で、演習の見本を見せる。
  - 児童は、やりたい子にやらせる。
  - 見る人は、椅子に座って見る。
  - 4人の位置の取り方を確認する。
  - T1とT2は、四つの観点（近くで目を見て笑顔ではっきり）に従って、誘う人に一言ずつアドバイスをする。
  - 次の演習では、名札を交換しながら、全員が1回ずつ友達を誘う練習を行うことを伝える。



## 3 演習

- 1回目
  - ・まず、見る人が椅子を持っていき、位置を決めて座る。
  - ・次に、誘う人と誘われる人が位置に着く。
  - ・終わったグループは、その場にだまって座るよう指示する。
  - ・誘う人は4つの観点到気を付けて誘うことと、見る人はアドバイスをすることを確認してから始める。
  - ・全員座ったら、きちんとできたかどうか、分からないことはなかったかを確認する。
- 2回目
  - ・誘う人と誘われる人は、名札と位置を交換する。見る人は、そのまま待つ。
  - ・すべての班の準備ができてから、演習を始める。
- 3回目
  - ・見る人は、誘う人・誘われる人と名札を交換し、それぞれ位置を交換する。
  - ・誘う人は4つの観点到気を付けて誘うことと、見る人はアドバイスをすることをもう一度確認してから始める。
- 4回目
  - ・2回目と同様

## 展開5の③ 指定されたグループを作る

- 1 今度は、指定された条件のグループを作ることを伝え、やり方を確認する。
  - 教室内を自由に動き、だれがだれを誘ってもよい。
  - 誘われたら拒否しない。
  - 競争ではないので、あわてない。走ったり大声を出したりしない。
  - 「相手に近づき、目を見て笑顔で、はっきり聞こえるように誘う」ことを確認する。
  - グループができたなら、まとまってその場に座る。
- 2 演習を行う。
  - 5人以上のグループ
    - ・5人より多ければ、何人でもよいことを確認しておく  
(人数が足りない時は、他のグループと誘い合っ一緒になる)
  - 男女混合の4人以上のグループ

# 友だちをさそおう



年 組 名前 ( )

できた時は、りんごに好きな色をぬろう！

	日 ( )	日 ( )	日 ( )	日 ( )	日 ( )
1 友だちを なかまにさ そった。					
いつです か？					
2 近くで えがおで目 を見てはっき りと言った。					
3 だれかに さそっても らった。					
いつです か？					
4 友だちの 気持ちを考 えて、たのし くあそぶこ とができた。					
さそったり さそわれた りして、どう でしたか？ 思ったこと を書こう。					

先生から

## 相手のことを考えて仲良くしよう

10月30日(火)と11月1日(木)に、道徳「くりのみ」の授業を全クラスで行いました。

厳しい寒さの冬のある日、おなかをすかせたきつねとうさぎは、それぞれ食べ物を探しに出かけます。きつねは、たくさんのどんぐりを見つけ、おなかいっぱい食べて残りを隠します。そして、友達のうさぎには、「何にもなくてはらぺこです。」とうそをつきます。一方、うさぎは、二つだけ見つけた栗の実のをきつねに渡します。きつねは、その栗の実を握りしめて、涙をぼろぼろこぼすというお話です。



授業では、涙をこぼしたきつねの気持ちについて、「うさぎさん、やさしいな。2つしかないのに分けてくれて。うそをつかなきゃよかった。」「ぼくはなんてことをしてしまったんだろう。うさぎさんにどんぐりをあげようかな。」「どんぐりをかくさないで、うさぎさんといっしょに分ければよかったなあ。」など、たくさんの意見が発表されました。そして、出された意見の中から、自分がいいと思うものや少し違うと思うものについて、隣の席の人同士で話し合ったり、全体に発表したりして更に考えを深めました。その上で、きつねとうさぎの行動や気持ちをもう一度振り返り、どんぐりを隠したりうそをついたりして自分のことしか考えていないきつね、相手の気持ちを考えて2つしかない栗の実を1つ分けてあげたうさぎ、という両者の違いに気付かせていきました。



授業の振り返りのワークシートには、「くりのみをあげたうさぎさんは、しんせつでやさしいどうぶつだと思いました。うさぎさんのようにやさしい子になりたいです。」「人のことを考えて、自分かってにならないことが大切だと思いました。やさしくしていれば、いろいろな友だちができるかもしれないと考えました。」など、相手の気持ちを考えて優しくしたり親切にしたりすることの大切さが多く書かれていました。

学習・生活がんばりカードには、『きつねはこの後どうした?』と尋ねたところ、『勇気を出してうさぎに謝って、どんぐりを分けてあげられた』と答えました。自分と友達との関係に置き換え、本文にはない部分のきつねの気持ちを考えることができたと思います。」「大人でさえ自分本位の多い社会。もっと思いやりの心が自然と増え、尊重されていくといいのになと自分自身も反省しつつ、子どもたちを温かく育てていこうと改めて心に誓いました。」「授業で、子どもたちが自分のことを振り返り、妹や友達の気持ちを考えて優しくしてあげたいと発表していたのが、私の心に残っています。」など、たくさんのご意見をいただきました。

次回の「相手の気持ちを考える」授業は、11月11日(日)の授業参観日に、学級活動「言葉のプレゼント」を行います。多数の保護者の皆様のおいでをお待ちしております。尚、詳しい当日の日程については、各クラスの学級便りをご覧ください。

# お子さんに「言葉のプレゼント」を！

本日は、授業参観及び学級懇談会で大変お世話になりました。

2年生では、「相手の気持ちを考えることができる」ように、学級活動「言葉のプレゼント」を行いました。お子さんの学習の様子は、いかがでしたか。

さて、保護者の皆様にお願いがあります。おうちでも「言葉のプレゼント」を実践してみてください。お子さんは、どんな反応をするでしょうか。学校で友達から認められることとはひと味違って、お父さんやお母さんからもらう「言葉のプレゼント」は、お子さんの心に深く染みるものになると思います。どうぞよろしく願いいたします。

## ○「言葉のプレゼント」のやり方



- 1 「言葉のプレゼントカード」に、お子さんのよいところを認めるメッセージを書いてください。メッセージは、短いものでもかまいません。

① ・お手つだいがとても

- たすかるよ！
- ・自分のことは自分でできるね。
- ・妹や弟のめんどうをみてくれて、ありがとう。
- ・毎日、かていがくしゅうノートでべんきょうしているね。



- 2 カードをお子さんに渡す時に、カードの言葉だけでは伝えきれないことを話してあげてください。お子さんから、話を聞けるとよいと思います。また、今日の学級活動の授業や学校生活のことも話題にしてみてください。
- 3 学習・生活がんばりカードに、この時のお子さんの様子や話したことなどについて記入してください。

※学習・生活がんばりカードは、11月13日（火）に提出してください。お手数をおかけしますが、ご協力をお願いいたします。

尚、お子さんが持ち帰った友達からの言葉のプレゼントカードと、保護者の方が贈った言葉のプレゼントカードも、合わせて学校に持たせてください。